

犬山市フューチャーセッション SEASON 4

FUTURE SESSION @INUYAMA



犬山市フューチャーセッション 2020～ >>> 犬山を舞台に何かやってみたいと、集まったメンバーが自由に語り合い、対話から新たな価値を生み出す「創造的な語り場」です。今年度SEASON 4は、初オンライン開催！テーマは「新しい犬山★始まる」です。お楽しみに！

各テーマのミッションを考える

3/20 SAT

プログラム

1. はじめに
2. 基本ルール説明・自己紹介
3. グループセッション 1
4. グループセッション 2
5. グループセッション 3
6. ハーベスト・振り返り
7. フリー交流会

今年度最後のセッションは時間を拡大しての開催となりました。最終回のテーマは「各テーマのミッションを考える」。Vol. 3から続いている3つのテーマについて説明を聞き、ビジョン(目指す理想)、ミッション(行動指針)を全員で考えます。参加者はセッションを3回体験し、最後に各テーマで出た意見を全体共有しました。フューチャーセッションは犬山を舞台に進められる前向きな語り合いの場。「ほしい未来は自分たちで！」の気持ちが伝わってきます。最終ワークはチャット機能を使って振り返りをしました。

当日はスタッフ含め15名が集いました。

1

グループセッション

いぬくら担当ファシリテーターからテーマの説明を受けた後、各自入りたい

セッションルームを選んで入室しました。進め方やメンバー、人数などはセッションごとに毎回チェンジ。

A 人がバリアフリーにする犬山にならいいね！

お互いにコミュニケーションを取り合うことで、人と人が心で繋がり、「人によるバリアフリー」が広がる街を目指す。

session 1

- 子ども会がない、子育て世代と子育て終了世代の交流の場がない
- 「子ども」の存在がお互いを知り合う良いきっかけになるのではないか
- 子はかすがい
- 昔からの地域行事などの場

session 2 どんな場で繋がるとよい？

- 様々な立場が混ざり合う場だと良い
- スポーツを通して繋がる場
ex. アンプティサッカー、車椅子バスケ
※障がい者・健常者の区別なく楽しむ
- 繋がるだけでなく、「配慮する」仕組み
※「対話」を重視する姿勢→配慮にも繋がる

session 3

- 「まつり」が交流の場としては重要！
- 共通の目的があると良い
ex. ゴミ拾いとか
- 「風呂」を通して繋がる
- 現役世代がもっと頑張る必要あり
- リーダー、コーディネーターの存在も重要なのは

人と人が繋がったり出会う場を作ると良い。子どもが親と親を(他人同士)を繋げる役割を果たすことから、「子ども」というキーワードが出た。そしてもう一つ、障がい者スポーツ。障がい者と健常者がスポーツを通して触れ合う場として有効。他には、お互いを「配慮する」仕組みがミッションに組み込まれるとより良いストーリーになる。世代間交流には祭が一番との意見も。共通の目的を協働プラザのサポートも受けながら、フューチャーセッション発信でまちづくりの活動をしたい人がそれぞれの地域、場で活躍すれば、このミッションは達成されるという話になった。



B 犬山信源地化計画

新しい経済活動・文化活動の中心地となり、犬山発の新しい波を生み出していく・観光産業の集客力を起点とした移住者増加施策により、住民生活の質的向上を促進し、観光産業と住民生活の共存を図る。

session 1

観光産業と住民生活の共存

- 今ある仕組みではTABICA
- クラインガルテン(滞在型市民農園)のような暮らしに近いコト
↓それは市民自身がやりたいこと?
- アイデアが出にくい…
- 観光に囚われず、住民が犬山の何を楽しんでいるかを考える
- 観光の原点は、国の光(良いところ)を観に行く

session 2

街の認知度を底上げ

- 知らない、知る機会がない
- 情報を自ら取りに行く人は、市の広報を見たり、ネット検索する
- 多くの市民は、市内の情報は調べない?
↓一部の人達だけが参加して、住民不在のまちづくりにならない?
人によって響くアプローチは様々
- 例えば口コミ。喫茶店で隣のグループの話が聞こえてくるような、何かついで自然と耳に入ってくるイメージ。

session 3

住民視点

- 観光区域と居住区域を分け、静かな暮らしを維持したい
- 里山は見慣れた景色。レジャーにしない住民も多い
↓古くからの住民ではなく、移住者や他地区の人がプレーヤーになるかも
- 住民のメリットは何?
- 小学生が外国人観光客に英語でガイド。語学力向上。(倉敷の例)
- 事前告知無しで人が集まった時にイベントを開催する手法にヒント?



どのようにしたら地域住民が文化的な生活、観光的視点を持つのかと考えたが、観光産業と住民生活は分けて考えた。住民が犬山での暮らしを何で楽しんでいるか?地元の人が見慣れた市内で遊ぶには?を考えると、住民が地元のことを知らない、知る機会が少ないことが挙げられた。そのような情報を取りに行かない人に対し、町を知ってもらう事や、住民の感覚を踏まえてこのテーマは考えなくてはいけない、という意見が出た。

C お帰りなさいが似合う町

暮らしたり、楽しんだり、活躍したりできる犬山。

session 1

- 楽しさや便利さ(電車、車)
は、年代によって違う。
→なんでも受け入れてくれるという包容力があつたらいいな
- 質より量を(できれば質も…)
- 多様性に対応できる窓口を増やす
→日常が感じられ、お得を感じるイベント

session 2

- 公共の交通網が充実していたらいい名古屋まで電車で30分
→でも犬山駅まで行くのに、時間掛かるよね地元の声が反映される仕組み→声が届くデマンドバス、デマンドタクシー、乗合タクシー(各務原)など
- 今井の事例…バスで通学の手助け
→市民と行政の協働の手本

session 3

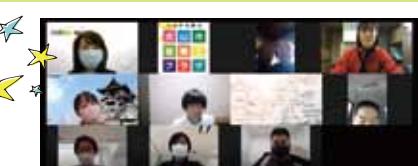
- 自分のやってみたいことが、犬山で出来ていない。
→舞台演劇→まだまだ関心が薄い、文化として根付かせたい。
- 赤い電車、踏みきりや祭の音、犬山城や成田山を見て感じる色や風景が帰ったと感じる。



多くのターゲットへ向けて「住みやすい犬山」をアプローチするには、多様性が大切で、多角的な視点が必要。外からの人へのアプローチも大切だが、住民の満足度を上げることも必要。デマンドバス(乗り合いバス)はどうか。好きな場所で乗降できるバスが市内を網羅していたら満足度が上がる。今井地区は、市へ要望するだけではなく、提案型で伝え政策が展開された経緯がある。意見するだけではなく市との協働でまちづくりが進んだことが魅力。魅力創造型で色々なものを文化として根づかせ、魅力として発信、犬山の価値が上がり活躍する人も増える。「お帰りなさいが似合う町」とはどういうことか、もう一度定義を見直す話し合いをした。

2 最終ワーク

3回のセッションを終え、各自が一番興味深いと感じたもの、実際にやってみるならどのテーマのミッションかをグループワークで意見交換。その後チャット機能を使い全体共有をしました。



どの地域に住んでいるかによって、皆さんそれぞれ視点が異なるのが興味深いと思いました(複眼的なモノの方ができます)

いぬクラメンバーガー中心になって、イベントでもフェスでも犬山ツアーでも何でもいいので、1つ何かの形を作りたい!いや、作ろう!

2回参加して、楽しかったです、市民参加で古墳テーマで話し合いたいです。

「誰でも発信できること」が大切! フュチャーセッション自体がそのような場でありオンライン授業にも繋がる考え方。

地域が繋がるまつりがしたい!



街づくりに興味ある人はまだまだ握りながらもしねないが、今このような場があることがすごい!楽しみながら参加できる仕組みを作って垣根を広げていくことが大切!

「バリアフリー」という単語から、最初はあまり繋がらなかったけど、いろいろな意見をもらうことで、自分がすでに活動していることと大いに繋がるテーマワークだと気付きました!

Aのテーマに興味があり、何かができることがあれば協力してみたいですね。あとは、Cのミッション、教育に関する事にも協力してみたいですね。

協働プラザ事業としてリスタートした「フュチャーセッション@犬山」。コロナ禍ということでオンラインツールZoomを使用し、回を重ねるごとに進化しました。皆さんのおかげで今年度を終えることができました。「創造的な語り場」に来年度もぜひご参加ください!

THANK YOU!



犬山市松本町四丁目21番地
(犬山市民交流センターフロイド内)

TEL 0568-48-1221

MAIL info@inuyama-plaza.com

URL inuyama-plaza.com